

7. 精神疾患病態研究部

I. 研究部の概要

精神疾患病態研究部では、精神疾患の克服とその障害の支援のための先駆的研究活動を展開している。平成30年7月1日より、橋本亮太部長が着任し、精神疾患の生物学的な研究と精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動をより発展させて全国レベルで展開することを目指している。精神疾患の生物学的な研究は、認知社会機能、脳神経画像、神経生理機能などの中間表現型及びゲノムなどの生体試料を用いて、統合失調症、気分障害、発達障害などの幅広い精神疾患について疾患横断的に検討することにより、病態を解明し、新たな診断法・治療法の開発を行っている。この研究は、当研究部においてのみ行うものではなく、国立精神・神経医療研究センターの他の研究部門および日本全国39の精神疾患関連研究機関の共同研究体制であるCOCORO (Cognitive Genetics Collaborative Research Organization : 認知ゲノム共同研究機構) を運営しオールジャパン体制で遂行している。精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動は、EGUIDEプロジェクトという全国42大学を含む131医療機関の共同研究組織を牽引し、全国でガイドラインの講習を行い、その効果検証を行っている。

平成30年度の人員構成は次のとおりである。部長：橋本亮太、室長：宇野洋太（平成31年1月1日～）、流动研究員：椎野智子（平成30年8月1日～）、科研費研究補助員：山縣眞美子（平成30年7月1日～）、研究助手：梅田佳子（平成30年7月18日～）、岩野千恵（平成30年11月1日～）、松嶋千代（平成30年12月1日～）、併任研究員：久保田智香、客員研究員（平成30年度末時点：45名）、研究生（平成30年度末時点：16名）。

II. 研究活動

A. 精神疾患の病態解明と診断法・治療法の開発研究

精神疾患の病態解明研究として、精神疾患の克服とその障害支援にむけた研究推進を行っている。精神科の多施設共同研究体制であるCOCOROを牽引し、統合失調症、気分障害、発達障害等の臨床研究データ、バイオリソース等の収集、蓄積及び管理を行い、新たな疾患分類による病態解明と診断法・治療法の開発を実施する。脳の幅広い表現型である中間表現型やゲノムなどの生体試料を用いて、症状や病態仮説に基づくことなく精神神経疾患の新たな疾患カテゴリーの分類とその病態の解明を目的として研究を行っている。その結果、精神疾患の成因・病態生理等における遺伝要因の解明、および新たな診断と治療法の開発、脳機能の分子メカニズムの解明に資することができ、精神疾患患者の精神症状や社会機能障害といったクリニカルリカバリー指標を改善させるだけでなく、患者の主観的満足感の改善を加えたパーソナルリカバリーに貢献できると考えている。

1) 認知社会機能プロジェクト（橋本、宇野、椎野）

広く診療で使えるような統合失調症の認知機能障害の簡便な測定法を開発し、普及のため各地で講習会などを行っている。COCOROの認知・社会機能の標準バッテリーとなっており、2000例程度の精神疾患と健常者のデータの集積が出来ている。認知機能障害は、簡略版WAISで測定する推定知能とJapanese Adult Reading Test (JART)で測定する推定病前知能の差にて算出し、社会機能は最も重要なもののひとつである労働時間を測定している。これらを用いて、認知機能障害が統合失調症患者の労働時間の推定に役立つことを見出した（橋本、Sumiyoshi et al Schizophrenia Res, 2018）。

2) 精神疾患の眼球運動研究（橋本、椎野）

統合失調症をはじめとする精神疾患では、眼球運動の異常が認められることが知られている。

特に統合失調症では、フリービューリング課題、滑動性追跡眼球運動課題、注視課題からなる眼球運動スコアにより80%程度で健常者と判別できることを示してきた。本年度は、統合失調症の眼球運動スコアが労働時間と相関すること、そして眼球運動の全ゲノム関連解析にて、滑動性追跡眼球運動課題が、脳に発現する1q21.3と20q13.12の遺伝子と関連することを見出した（橋本, Morita et al, Schizophrenia Res, 2018; Kikuchi et al, Sci Rep, 2018）。

3) 精神疾患の脳神経画像研究（橋本）

精神疾患の中でも統合失調症を中心にFreeSurferの手法を用いた三次元脳構造画像解析や、拡散テンソル画像解析などを行っている。拡散テンソル画像解析では、前頭葉白質や脳梁が統合失調症の社会機能と関連することを見出した（橋本, Koshiyama et al, Schizophrenia Res, 2018）。Soluble Tumor Necrosis Factor Receptor 2 (sTNFR2) の血漿中の濃度が、統合失調症で増加しており、海馬体積及び認知機能とも相関することを見出した（橋本, Kudo et al, Int J Neuropsychopharmacol, 2018）。国際的な脳神経画像の巨大コンソーシアムであるENIGMAとの共同研究を行い、FreeSurferの解析を行い、統合失調症の大脳皮質厚の異常について9572例のデータを用いて報告した（橋本, van Erp, Biological Psychiatry, 2018）。

B. 精神科医療の普及・均てん化に関する研究

1) 精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動：EGUIDEプロジェクト（橋本, 宇野, 椎野, 久保田）

EGUIDEプロジェクトは、精神科医に対してガイドラインの教育の講習を行い、ガイドラインの効果を検証する社会実証研究である。対象とするガイドラインは、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインであり、日本神経精神薬理学会、日本うつ病学会、日本臨床精神神経薬理学会のバックアップを受けて行っている。2016年に開始したEGUIDEプロジェクトは、本年度42大学131医療機関が参加する巨大なプロジェクトになり、毎年20回以上の講習会を全国で行い、延べ1200名以上の精神科医が講習を受講した。この講習は、受講者の評判がよく、周りの精神科医にも勧めたいという声が上がっており、これが広がっていく大きな要因であると考えられている。講習を担当するEGUIDE指導医は初年度の23名から44名に増えており、順調に育成が進んでいる。EGUIDEプロジェクトにおける検証活動は、講習受講直後のガイドラインの理解度の向上、その後のガイドラインを遵守した治療行動調査における実践度の向上という形で示されており、学会発表を行っている。更に、処方行動を診療の質（Quality Indicator: QI）という形で測定し、例えば統合失調症患者の退院時の抗精神病薬単剤治療率というようなQIを設定し、経時的に測定することにより、講習の効果の有無についての検討を行っており、学会発表を行っている。日本精神科病院協会や日本精神神経科診療所協会にも働きかけ、学術大会においてガイドラインに関するシンポジウムを行った。

2) 精神科治療ガイドラインの作成・改訂（橋本）

統合失調症薬物治療ガイドラインは専門家である精神科医向けに作られており、当事者などにはわかりにくかった。そこで、当事者・家族・支援者でも理解できる簡単な「統合失調症薬物治療ガイド」を、当事者・家族・支援者の協力を得て作成し、学会のホームページで無料で公開し、本としても出版し、関連学会・協会等にて、本ガイドのシンポジウムや特別講演を行い、普及につとめた。更に、当事者・家族・支援者の協力関係を生かして、統合失調症薬物治療ガイドラインの改訂において、当事者・家族・支援者の協力を得て一緒に作成を行っている。統合失調症薬物治療ガイドラインは、精神科領域で初めて日本医療機能評価機能のEBM推進事業であるMindsの方法論で作成されたものであり、このようなエビデンスに基づくガイドラインを当事者・家族・支援者と共に作成することは大きな一步であるといえる。

III. 社会的活動に関する評価

(1) 市民社会に対する一般的な貢献

- 地域における自治体主催の講演会や勉強会、当事者の家族会の集まりなどに招待され、講演や講義を行った。また、忌憚ない意見交換ができる懇親会や談話会、情報交換会にも参加し社会をニーズの把握し、コメディカルなどを対象とした研修会を多数企画し講師を務め、専門知識の啓発活動を行った（橋本）。

(2) 専門教育面における貢献

- 統合失調症やうつ病などのガイドラインの作成を行い、精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動である EGUIDE プロジェクトも全国展開している。EGUIDE プロジェクトにおいては、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインの講習を全国の精神科医を対象に行い、その医療機関における治療に影響を与えるかどうかについての検討を行い、精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果を検証している。平成 30 年度は、全国で 27 回の講習を行い 200 名以上が参加した。また、受講者が更にステップアップするためのアドバンストコースを行い、20 名程度の熱心な受講者が全国から集まり、より、高度なガイドラインの使いこなし方について、議論が盛り上がった。更に、普及を推進するために、日本精神科病院協会や日本精神神経科診療所協会にも働きかけ、それぞれの学術大会においてガイドラインに関するシンポジウムを行った（橋本）。
- 開発した統合失調症の認知機能障害の簡便な測定法についての講習会を全国各地で行い、評価シートを配布し普及活動を行った（橋本）。
- 国立大学法人 大阪大学の医学系研究科、連合小児発達学研究科および情報科学研究科においては招へい教授として、奈良県立医科大学においては非常勤講師として、精神医学研究の指導や知見の教授を行っている（橋本）。

(3) 精研の研修の主催と協力

(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献

- 日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会、日本うつ病学会など 13 の精神医学関連諸学会がまとめた「精神疾患の克服と障害支援にむけた研究推進」の政策提言の作成に関する活動に従事した。この提言では、本邦の精神疾患研究の現状と総力を挙げてとりくむべき課題やロードマップを示したうえで、精神疾患の研究を行い、病態の解明、診断法・治療法の開発、介入法を開発することは国民の保健・医療・福祉の向上に資するのみならず、大きな社会の負担を軽減し産業振興に寄与すると提言している（橋本）。

(5) センター内における臨床的活動

(6) その他

IV. 研究業績

A. 刊行物

(1) 原著論文

- 1) Miki K, Nakae A, Shi K, Yasuda Y, Yamamori H, Fujimoto M, Ikeda M, Shibata M, Yukioka M, Hashimoto R: Frequency of mental disorders among chronic pain patients with or without fibromyalgia in Japan. Neuropsychopharmacol Rep 38(4): 167-174, 2018.
- 2) Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Kelly S, Jahanshad N, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Donohoe G,

- Thompson PM, Kasai K, Hashimoto R: Role of frontal white matter and corpus callosum on social function in schizophrenia. *Schizophr Res* 202: 180-187, 2018.
- 3) Morita K, Miura K, Fujimoto M, Shishido E, Shiino T, Takahashi J, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Hirano Y, Koshiyama D, Okada N, Ikeda M, Onitsuka T, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R: Abnormalities of eye movement are associated with work hours in schizophrenia. *Schizophr Res* 202:420-422, 2018.
 - 4) Sumiyoshi C, Fujino H, Yamamori H, Kudo N, Azechi H, Fujimoto M, Yasuda Y, Ohi K, Sumiyoshi T, Hashimoto R: Predicting work outcome in patients with schizophrenia: Influence of IQ decline. *Schizophr Res* 201: 172-179, 2018.
 - 5) van Erp TGM, Walton E, Hibar DP, Schmaal L, Jiang W, Glahn DC, Pearlson GD, Yao N, Fukunaga M, Hashimoto R, (178名中10番目) Okada N, Yamamori H, Bustillo JR, Clark VP, Agartz I, Mueller BA, Cahn W, de Zwart SMC, Hulshoff Pol HE, Kahn RS, Ophoff RA, van Haren NEM, Andreassen OA, Dale AM, Doan NT, Gurholt TP, Hartberg CB, Haukvik UK, Jørgensen KN, Lagerberg TV, Melle I, Westlye LT, Gruber O, Kraemer B, Richter A, Zilles D, Calhoun VD, Crespo-Facorro B, Roiz-Santiañez R, Tordesillas-Gutiérrez D, Loughland C, Carr VJ, Catts S, Cropley VL, Fullerton JM, Green MJ, Henskens FA, Jablensky A, Lenroot RK, Mowry BJ, Michie PT, Pantelis C, Quidé Y, Schall U, Scott RJ, Cairns MJ, Seal M, Tooney PA, Rasser PE, Cooper G, Shannon Weickert C, Weickert TW, Morris DW, Hong E, Kochunov P, Beard LM, Gur RE, Gur RC, Satterthwaite TD, Wolf DH, Belger A, Brown GG, Ford JM, Macciardi F, Mathalon DH, O'Leary DS, Potkin SG, Preda A, Voyvodic J, Lim KO, McEwen S, Yang F, Tan Y, Tan S, Wang Z, Fan F, Chen J, Xiang H, Tang S, Guo H, Wan P, Wei D, Bockholt HJ, Ehrlich S, Wolthusen RPF, King MD, Shoemaker JM, Sponheim SR, De Haan L, Koenders L, Machielsen MW, van Amelsvoort T, Veltman DJ, Assogna F, Banaj N, de Rossi P, Iorio M, Piras F, Spalletta G, McKenna PJ, Pomarol-Clotet E, Salvador R, Corvin A, Donohoe G, Kelly S, Whelan CD, Dickie EW, Rotenberg D, Voineskos AN, Ciufolini S, Radua J, Dazzan P, Murray R, Reis Marques T, Simmons A, Borgwardt S, Egloff L, Harrisberger F, Riecher-Rössler A, Smieskova R, Alpert KI, Wang L, Jönsson EG, Koops S, Sommer IEC, Bertolino A, Bonvino A, Di Giorgio A, Neilson E, Mayer AR, Stephen JM, Kwon JS, Yun JY, Cannon DM, McDonald C, Lebedeva I, Tomyshev AS, Akhadov T, Kaleda V, Fatouros-Bergman H, Flyckt L; Karolinska Schizophrenia Project, Busatto GF, Rosa PGP, Serpa MH, Zanetti MV, Hoschl C, Skoch A, Spaniel F, Tomecek D, Hagenaars SP, McIntosh AM, Whalley HC, Lawrie SM, Knöchel C, Oertel-Knöchel V, Stäblein M, Howells FM, Stein DJ, Temmingh HS, Uhlmann A, Lopez-Jaramillo C, Dima D, McMahon A, Faskowitz JI, Gutman BA, Jahanshad N, Thompson PM, Turner JA: Cortical Brain Abnormalities in 4474 Individuals With Schizophrenia and 5098 Control Subjects via the Enhancing Neuro Imaging Genetics Through Meta Analysis (ENIGMA) Consortium. *Biol Psychiatry* 84(9): 644-654, 2018.
 - 6) Kushima I, Aleksic B, Nakatomi M, Shimamura T, Okada T, Uno Y, Morikawa M, Ishizuka K, Shiino T, Kimura H, Arioka Y, Yoshimi A, Takasaki Y, Yu Y, Nakamura Y, Yamamoto M, Iidaka T, Iritani S, Inada T, Ogawa N, Shishido E, Torii Y, Kawano N, Omura Y, Yoshikawa T, Uchiyama T, Yamamoto T, Ikeda M, Hashimoto R, (80名中29番目) Yamamori H, Yasuda Y, Someya T, Watanabe Y, Egawa J, Nunokawa A, Itokawa M, Arai M, Miyashita M, Kobori A, Suzuki M, Takahashi T, Usami M, Kodaira M, Watanabe K, Sasaki T, Kuwabara H, Tochigi M, Nishimura F, Yamasue H, Eriguchi Y, Benner S, Kojima M, Yassin W, Munesue T, Yokoyama S, Kimura R, Funabiki Y, Kosaka H, Ishitobi M, Ohmori T, Numata S, Yoshikawa T, Toyota T, Yamakawa K, Suzuki T, Inoue Y, Nakaoka K, Goto YI, Inagaki M,

- Hashimoto N, Kusumi I, Son S, Murai T, Ikegami T, Okada N, Kasai K, Kunimoto S, Mori D, Iwata N, Ozaki N: Comparative Analyses of Copy-Number Variation in Autism Spectrum Disorder and Schizophrenia Reveal Etiological Overlap and Biological Insights. *Cell Rep* 24(11): 2838-2856, 2018.
- 7) Zhang Y, Hishimoto A, Otsuka I, Watanabe Y, Numata S, Yamamori H, Boku S, Horai T, Someya T, Ohmori T, Hashimoto R, Sora I: Longer telomeres in elderly schizophrenia are associated with long-term hospitalization in the Japanese population. *J Psychiatr Res* 103: 161-166, 2018.
 - 8) Kikuchi M, Miura K, Morita K, Yamamori H, Fujimoto M, Ikeda M, Yasuda Y, Nakaya A, Hashimoto R: Genome-wide Association Analysis of Eye Movement Dysfunction in Schizophrenia. *Sci Rep* 8(1): 12347, 2018.
 - 9) Kudo N, Yamamori H, Ishima T, Nemoto K, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Niitsu T, Numata S, Ikeda M, Iyo M, Ohmori T, Fukunaga M, Watanabe Y, Hashimoto K, Hashimoto R: Plasma Levels of Soluble Tumor Necrosis Factor Receptor 2 (sTNFR2) Are Associated with Hippocampal Volume and Cognitive Performance in Patients with Schizophrenia. *Int J Neuropsychopharmacol* 21(7): 631-639, 2018.
 - 10) Hibar DP, Cheung JW, Medland SE, Mufford MS, Jahanshad N, Dalvie S, Ramesar R, Stewart E, van den Heuvel OA, Pauls DL, Knowles JA, Stein DJ, Thompson PM, Enhancing Neuro Imaging Genetics through Meta Analysis (ENIGMA) Consortium, International Obsessive Compulsive Disorder Foundation Genetics Collaborative (IOCDF-GC): Significant concordance of genetic variation that increases both the risk for obsessive-compulsive disorder and the volumes of the nucleus accumbens and putamen. *Br J Psychiatry* 213(1): 430-436, 2018.
 - 11) Ohi K, Sumiyoshi C, Fujino H, Yasuda Y, Yamamori H, Fujimoto M, Shiino T, Sumiyoshi T, Hashimoto R: Genetic Overlap between General Cognitive Function and Schizophrenia: A Review of Cognitive GWASs. *Int J Mol Sci* 19(12): 3822, 2018.
 - 12) Numata S, Umehara H, Ohmori T, Hashimoto R: Clozapine Pharmacogenetic Studies in Schizophrenia: Efficacy and Agranulocytosis. *Front Pharmacol* 9: 1049, 2018.
 - 13) 村田篤信, 五十嵐 中, 橋本亮太, 桑原秀徳, 谷藤弘淳, 林 貴史, 三輪高市, 善本正樹, 吉尾 隆 : 費用効果分析による精神科病棟薬剤業務の薬剤経済学的有用性評価. 日本病院薬剤師会雑誌 54(7) : 835-840, 2018.

(2) 総説

- 1) 橋本亮太 : 統合失調症薬物治療ガイドラインとは・ガイドラインの概念と使い方-. 日本精神薬学会誌 2(2) : 68-69, 2019.
- 2) 大井一高, 嶋田貴充, 片岡 讓, 栗田有紀, 橋本亮太 : Conference Report: 第 31 回国際神経精神薬理学会(CINP). 臨床 Legato 4(3) : 50-52, 2018.
- 3) 橋本亮太 : わかりやすい「統合失調症薬物治療ガイドライン」. メンタルヘルスマガジン こころの元気+12(11) : 26-27, 2018.
- 4) 橋本亮太 : ガイドラインにおける clozapine. 臨床精神薬理 21(11) : 1451-1458, 2018.
- 5) 橋本亮太 : EGUIDE プロジェクトによる精神科医療の普及と教育. Depression Strategy うつ病治療の新たなストラテジー 8(3) : 4-7, 2018.
- 6) 橋本亮太 : 本邦での統合失調症ガイドライン. 月刊精神科 33(1) : 45-51, 2018.

(3) 著書

- 1) 統合失調症薬物治療ガイド作成メンバー (日本神経精神薬理学会) : 統合失調症薬物治療ガイ

ドー患者さん・ご家族・支援者のために—。じほう、2018.

(4) 研究報告書

- 1) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクトによる大学病院での向精神薬の処方実態の調査と診療の質指標による評価. 平成30年度厚生科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業(精神障害分野)「向精神薬の処方実態の解明と適正処方を実践するための薬物療法ガイドラインに関する研究(代表:三島和夫)」(H29-精神-一般-001) 分担研究報告書. 2019.
- 2) 橋本亮太：EGUIDE プロジェクトによる大学病院での向精神薬の処方実態の調査と診療の質指標による評価. H29年度-H30年度 厚生科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業(精神障害分野)「向精神薬の処方実態の解明と適正処方を実践するための薬物療法ガイドラインに関する研究」(H29-精神-一般-001) 総合研究報告書. 2019.
- 3) 橋本亮太：統合失調症の脳画像・生理・認知行動解析による病態神経回路解明. H30年度日本医療研究開発機構 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト 「大規模脳画像解析とヒト-靈長類を連結するトランスレータブル脳・行動指標開発にもとづく精神疾患の病態神経回路解明(研究開発代表者:笠井清登)」2018年度 委託研究開発成果報告書. 2019.
- 4) 橋本亮太：ガイドラインの普及活動. H30年度日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)「うつ病性障害における包括的治療ガイドラインの標準化および普及に関する研究(研究開発代表者:渡邊衡一郎)」2018年度 委託研究開発成果報告書. 2019.
- 5) 橋本亮太：認知機能障害評価法と薬物治療ガイドラインのリカバリーとの関連についての研究. H30年度日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)「主体的人生のための統合失調症リカバリー支援—当事者との共同創造 co-production による実践ガイドライン策定(研究開発代表者:福田正人)」2018年度 委託研究開発成果報告書. 2019.
- 6) 橋本亮太：レジストリの構築(評価項目の品質管理). H30年度日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)「精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究(研究開発代表者:中込和幸)」2018年度 委託研究開発成果報告書. 2019.
- 7) 橋本亮太：うつ症状に関する精神疾患横断的な血漿を用いたバイオマーカー開発. H30年度日本医療研究開発機構 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)「血液メタボローム解析による精神疾患の層別化可能な客観的評価法の確立と治療最適化への応用(研究開発代表者:神庭重信)」2018年度 委託研究開発成果報告書. 2019
- 8) 橋本亮太：気分障害と統合失調症の疾患連続性に関する脳画像等の総合的解析研究. H30年度日本医療研究開発機構 戰略的国際脳科学研究推進プログラム 「縦断的MRIデータに基づく成人期気分障害と関連疾患の神経回路の解明(研究開発代表者:岡本泰昌)」2018年度 委託研究開発成果報告書. 2019.

(5) 翻訳

(6) その他

- 1) 橋本亮太：インタビュー 病前と現状を比較する「15分認知機能測定法 簡略版」を開発、認知機能障害にアプローチする。「CONSONANCE 統合失調症治療を考える」2019 WINTER 通巻第69号:2-3, 2019.

B. 学会・研究会における発表

- (1) 学会特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション等
- 1) Hashimoto R: Behavior/Self-Reports/Paradigms based on RDoC focusing on cognitive impairment, Symposium, WFSBP Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry (WFSBP 2018 KOBE), Hyogo, 2018.9.9.
- 2) Okada N, Hashimoto R, Ozaki N, Kasai K: Circuits/Physiology biomarkers based on RDoC. Symposium, WFSBP Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry (WFSBP 2018 KOBE), Hyogo, 2018.9.9.
- 3) Hashimoto R: Cross-disorder analysis of neuroimaging data in Psychiatry, Japan-UK Neuroscience Symposium 2019, Chiba, 2019.2.10.
- 4) 山本果奈、松村憲佑、中澤敬信、永安一樹、栗生俊彦、馬場優志、田熊一敞、鶴崎美徳、安田由華、山森英長、松本直通、橋本亮太、橋本 均：多発家系患者の iPS 分化神経細胞を用いた統合失調症の分子病態解析。次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2018, 福岡, 2018.8.25.
- 5) 越山太輔、福永雅喜、岡田直大、山下典生、山森英長、安田由華、藤本美智子、大井一高、藤野陽生、渡邊嘉之、笠井清登、橋本亮太：統合失調症の皮質下体積と認知・社会機能の相関解析。シンポジウム、第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学会大会合同年会、兵庫、2018.9.8.
- 6) 橋本亮太：共同研究の上手な進め方 - 多施設共同研究ってどうやるの？。第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学会大会合同年会、兵庫、2018.9.8.
- 7) 橋本亮太：統合失調症薬物治療ガイドラインとは-ガイドラインの概念と使い方。第 2 回日本精神薬学会総会・学術総会、愛知、2018.9.16.
- 8) 橋本亮太：精神科医療における標準治療と臨床経験との関係。第 7 回日本精神科医学会、長野、2018.10.5.
- 9) 畠山卓也、橋本亮太、加藤 玲、堀合研二郎：「統合失調症薬物治療ガイド_患者さん・ご家族・支援者のために_」を活用してみませんか？。第 25 回日本精神科看護専門学術集会 in 香川、香川、2018.10.26.
- 10) 橋本亮太：慢性疼痛と精神疾患：「やるべきこと」と「やってはならないこと」。日本線維筋痛症学会第 10 回学術集会、東京、2018.9.30.
- 11) 中澤敬信、橋本亮太、田熊一敞、橋本 均：iPS 細胞関連技術とヒト型疾患モデルマウスを用いた精神疾患の分子病態解析。シンポジウム、第 28 回日本臨床精神神経薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、2018.11.15.
- 12) 橋本亮太：統合失調症薬物治療ガイド-当事者・当事者家族・支援者のために。シンポジウム、第 28 回日本臨床精神神経薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、2018.11.15.
- 13) 橋本亮太：統合失調症薬物治療ガイド作成の趣旨。シンポジウム、第 28 回日本臨床精神神経薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会、東京、2018.11.15.
- 14) 三木健司、史 賢林、柴田政彦、行岡正雄、橋本亮太：線維筋痛症・広範囲慢性疼痛の集学的診療の取り組み 精神科診断について。第 11 回日本運動器疼痛学会、滋賀、2018.12.2.

(2) 一般演題

- 1) Matsumura K, Nakazawa T, Okada S, Nagayasu K, Miura H, Kasai A, Takuma K, Yamamori H, Yasuda Y, Hashimoto R, Hashimoto H: The de novo Q1042R POGZ mutation in sporadic ASD disrupts the neuronal differentiation. 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018 Kyoto), Kyoto, 2018.7.5.
- 2) Morita K, Miura K, Fujimoto M, Shishido E, Shiino T, Takahashi J, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Hirano Y, Koshiyama D, Okada N, Ikeda M, Onitsuka T, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R: Abnormalities of eye movement are associated with work hours in

- schizophrenia: A multi-site study. 7th BESETO International Psychiatry Conference, Seoul, 2018.9.15.
- 3) Pisano C, Akula N, Consortium on Lithium Genetics, Zompo M.D., Squassina A, McMahon F.J: Integrative analysis of omics summary data to identify genes associated with lithium response and related phenotypes in patients with bipolar disorder. 26th WCPG (World Congress of Psychiatric Genetics), Glasgow, 2018.10.14.
 - 4) Takahashi J, Miura K, Morita K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Shishido E, Okazaki K, Shiino T, Kasai K, Hirano Y, Hashimoto R, Onitsuka T: Eye Movement Abnormalities in Major Depressive Disorder. The 21st Annual ISBD Conference (International Society for Bipolar Disorders), Sydney, 2019.3.21.
 - 5) Morita K, Miura K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Azehi H, Okada N, Koshiyama D, Kawakami S, Morita S, Ikeda M, Kasai K, Hashimoto R: Eyemovement abnormalities and their association with cognitive impairments in schizophrenia. 第41回日本神経科学大会, 兵庫, 2018.7.26-28.
 - 6) Takamura T, Nakamura T, Yoshinaga K, Ogata Y, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R, Hanakawa T: Resting-state functional connectivity MRI classification of major depressive disorder in multi-site data. 第41回日本神経科学大会, 兵庫, 2018.7.26-28.
 - 7) 坪井貴嗣, 高江洲義和, 田形弘実, 辻野尚久, 稲田 健, 橋本亮太, 渡邊衡一郎: うつ病治療ガイドラインの教育効果についての検証: 平成28年度EGUIDEプロジェクトからの報告. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018.7.28.
 - 8) 伊賀淳一, 越智紳一郎, 安田由華, 山本智也, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, 上野修一: 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究(EGUIDEプロジェクト) 参加施設のうつ病治療の診療の質の評価. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018.7.28.
 - 9) 橋本直樹, 成田 尚, 岡田直大, 福永雅喜, 橋本亮太, 久住一郎: 炭酸リチウムと抗精神病薬が感情障害患者の皮質下脳体積に与える影響についての検討. 第15回日本うつ病学会総会, 東京, 2018.7.28.
 - 10) 岡田研一, 三浦健一郎, 藤本美智子, 森田健太郎, 山森英長, 安田由華, 稲垣未来男, 篠崎隆志, 藤田一郎, 橋本亮太: 過去の注視位置が統合失調症患者の視覚探索に与える影響. 視覚科学フォーラム, 大阪, 2018.9.5.
 - 11) 住吉チカ, 藤野陽生, 住吉太幹, 山森英長, 工藤紀子, 畠地裕統, 藤本美智子, 安田由華, 橋本亮太: 統合失調症における労働状態の予測因子: 確率予測による検討. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会, 兵庫, 2018.9.6.
 - 12) Morita K, Miura K, Fujimoto M, Shishido E, Shiino T, Takahashi J, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Hirano Y, Koshiyama D, Okada N, Ikeda M, Onitsuka T, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R: Abnormalities of eye movement are associated with work hours in schizophrenia. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会, 兵庫, 2018.9.6.
 - 13) Takahashi J, Miura K, Morita K, Fujimoto M, Yamamori H, Yuka Y, Kudo N, Shishido E, Okazaki K, Kasai K, Hirano Y, Hashimoto R, Onitsuka T: Eye Movement Abnormalities in Major Depressive Disorder. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会, 兵庫, 2018.9.7.
 - 14) 佐田あゆ美, 福留隆志, 釘抜利明, 橋本亮太: 簡易認知機能検査をアセスメントに用いた支援の実践. 日本デイケア学会第23回年次大会, 千葉, 2018.10.18.
 - 15) 大西 隆, 根本清貴, 山下典生, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 工藤紀子, 畠地裕統, 渡邊嘉之, 福永雅喜, 橋本亮太: 統合失調症におけるネットワーク障害: グラフ理論による解析. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018.11.14.

- 16) 大西 隆, 根本清貴, 山下典生, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 工藤紀子, 畦地裕統, 渡邊嘉之, 福永雅喜, 橋本亮太: 統合失調症における白質線維障害: 新しい解析手法 local connectometry の応用. 第 28 回日本臨床精神神経薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018.11.14.
- 17) 藤本美智子, 三浦健一郎, 森田健太郎, 工藤紀子, 畦地裕統, 山森英長, 安田由華, 池田 学, 橋本亮太: 統合失調症患者のクロザピン治療による中間表現型の変化. 第 28 回日本臨床精神神経薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018.11.14.
- 18) 松井佑樹, 大石 智, 滝澤毅矢, 工藤紀子, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: EGUIDE プロジェクトからの報告～過去 2 年間のガイドラインの教育効果と質の考察～. 第 28 回日本臨床精神神経薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018.11.15.
- 19) 市橋香代, 堀 輝, 安田由華, 山本智也, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 笠井清登, 橋本亮太: 統合失調症治療における施設群ごとの Quality Indicator の検討: 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDE) より. 第 28 回日本臨床精神神経薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018.11.15.
- 20) 橋本亮太, 市橋香代: リエゾン精神科医のためのガイドライン活用術. 第 31 回総合病院精神医学会総会, 東京, 2018.11.30.
- 21) 椎野智子, 住吉チカ, 藤野陽生, 山森英長, 藤本美智子, 安田由華, 大井一高, 住吉太幹, 橋本亮太: 統合失調症における認知機能障害評価法の臨床応用. 第 22 回日本精神保健・予防学会, 東京, 2019.12.1.
- 22) Miyanishi H, Uno K, Iwata M, Kikuchi Y, Ohi K, Hashimoto R, Sumiyoshi T, Nitta A: Increase of methylation of DNA from blood on SHATI/NAT8L promotor site in the patients with depression with no prior treatment. 第 92 回日本薬理学会年会, 大阪, 2019.3.15.

(3) 研究報告会

- 1) 橋本亮太: 多施設共同研究体制の構築. 第 16 回 IGC 第 12 回 COCORO 合同会議, 東京, 2018.12.8.
- 2) 橋本亮太: 精神疾患のバイオタイプによる診断・治療法の開発. 第 16 回 IGC 第 12 回 COCORO 合同会議, 東京, 2018.12.9.
- 3) 橋本亮太: 統合失調症の眼球運動研究. 平成 30 年度京都大学靈長類研究所共同利用研究会, 愛知, 2019.3.16.
- 4) 橋本亮太, 椎野智子: 精神疾患の病態解明とその障害への支援に関する研究. 平成 30 年度精神保健研究所研究報告会, 東京, 2019.3.18.

(4) その他

- 1) 橋本亮太: 大規模リソース及び iPS 技術を用いた統合失調症の病態予測のバイオマーカー開発. 基盤研究 (B) 特設分野研究研究代表者交流会, 東京, 2018.10.3.
- 2) 橋本亮太: 統合失調症の眼球運動障害のゲノム解析. H30 年度 AMED 「疾病克服に向けたゲノム医療実現プロジェクト」研究交流会, 東京, 2018.12.11.

C. 講演

- 1) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukunaga M: Cross disorder analysis of brain measures: implication of new diagnosis. Laboratory Seminar, Imaging Genetics Center, University of Southern California, Los Angeles, 2018.8.16.
- 2) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukunaga M: Cross disorder analysis of brain measures: implication of new diagnosis. UCI Medical Center Grand Rounds, Irvine, 2018.8.15.
- 3) Hashimoto R, Yasuda Y, Ohi K, Fukunaga M: Cross disorder analysis of brain measures:

- implication of new diagnosis. Luncheon Seminar, Atlanta, 2018.8.13.
- 4) 橋本亮太, 中込和幸: 統合失調症は治るのか～リカバリー概念から. 第5回 NCNP メディア塾, 東京, 2018.8.24.
 - 5) 橋本亮太: 精神疾患の克服とその障害支援への挑戦. 阪神精神科医会学術講演会, 兵庫, 2018.8.30.
 - 6) 橋本亮太: 当事者・家族・支援者に優しい統合失調症薬物治療ガイド. リカバリー全国フォーラム 2018, 東京, 2018.9.17.
 - 7) 住吉チカ, 藤野陽生, 山森英長, 工藤紀子, 畠地裕統, 藤本美智子, 安田由華, 大井一高, 住吉太幹, 橋本亮太: 統合失調症患者の労働状態: 推定精度に関わる要因. 精神疾患と認知機能研究会, 東京, 2018.11.10.
 - 8) 橋本亮太: 精神疾患の克服とその障害支援への挑戦. 横浜 YPS ピアスタッフの集い, 神奈川, 2018.11.29.
 - 9) 橋本亮太: 統合失調症～薬物治療の基本を学ぶ. 新宿区精神障害者家族会新宿フレンズ昼の家族会, 東京, 2019.1.12.
 - 10) 橋本亮太: 精神疾患の克服とその障害支援への挑戦. むさしの会: 1月の例会・学習会, 東京, 2019.1.26.
 - 11) 橋本亮太: 精神疾患の克服と障害支援への挑戦. 第四回認知機能をチーム医療で考える会, 東京, 2019.1.31.

D. 学会活動

(1) 学会主催

(2) 学会役員

- 1) 橋本亮太: 日本神経精神薬理学会 理事, 広報委員会委員長, 評議員, 選挙管理委員会委員, 統合失調症薬物治療ガイドライン作成タスクフォース委員, 編集委員会委員, 国際学術委員会委員, 執行委員会委員
- 2) 橋本亮太: 日本精神神経学会 PCN 編集委員会委員, 薬事委員会委員, 精神医学研究推進委員会委員
- 3) 橋本亮太: 日本神経化学会 将来計画委員会委員長, 利益相反委員会委員, 評議員
- 4) 橋本亮太: 日本統合失調症学会 評議員
- 5) 橋本亮太: 日本うつ病学会 評議員, 気分障害の治療ガイドライン作成委員会委員
- 6) 橋本亮太: 日本生物学的精神医学会 将来計画委員会委員, 関連学会対応委員会副委員長, 評議員
- 7) 橋本亮太: 国際神経精神薬理学会 フェローシップ表彰委員会委員, 教育委員会委員, 評議員

(3) 座長

- 1) 橋本亮太: 「統合失調症の認知機能障害を15分で誰でも簡便に測定できる実習コース」. 統合失調症における認知機能障害を考える会 in 金沢, 金沢, 2018.7.14.
- 2) 橋本亮太, 笠井清登: シンポジウム「基礎研究で活躍する精神科医の魂は進化したのか?」. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会, 神戸, 2018.9.6.
- 3) 橋本亮太: ポスターセッション「気分障害」. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会, 神戸, 2018.9.6.
- 4) 橋本亮太, 鬼塚俊明: 日本生物学的精神医学会「第4回最優秀奨励賞受賞者受賞講演」. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会, 神戸, 2018.9.7.
- 5) 橋本亮太, 村松里衣子: 教育講演3. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会, 神戸, 2018.9.8.

- 6) 橋本亮太：教育講演2「ゲノムから考える早期介入」。第22回日本精神保健・予防学会、東京、
2018.12.2.

(4) 学会誌編集委員等

- 1) 橋本亮太：日本精神神経学会機関誌「Psychiatry and Clinical Neuroscience」編集委員会委員
- 2) 橋本亮太：日本神経精神薬理学会機関誌「Neuropsychopharmacology Reports」「日本神経精神薬理学雑誌」編集委員会委員

E. 研修

(1) 研修企画

- 1) 橋本亮太：統合失調症における認知機能障害を考える会 in 金沢、金沢、2018.7.14.
- 2) 橋本亮太：第15回日本うつ病学会総会、EGUIDEプロジェクト：うつ病治療ガイドライン講習会、東京、2018.7.29.
- 3) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト北海道講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、北海道、2018.10.6.
- 4) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト北海道講習、うつ病治療ガイドライン講習、札幌、2018.10.7.
- 5) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト北陸地区講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、石川、2018.10.7.
- 6) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト北陸地区講習、うつ病治療ガイドライン講習、金沢、2018.10.8.
- 7) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト中国地区講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、山口、2018.10.13.
- 8) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト中国地区講習、うつ病治療ガイドライン講習、山口、2018.10.14.
- 9) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト関東地区講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、東京、2018.10.20.
- 10) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト関東地区講習、うつ病治療ガイドライン講習、東京、2018.10.21.
- 11) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト近畿地区講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、大阪、2018.10.21.
- 12) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト近畿地区講習、うつ病治療ガイドライン講習、大阪、2018.10.28.
- 13) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト関東地区講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、東京、2018.10.28.
- 14) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト九州地区講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、福岡、2018.11.3.
- 15) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト九州地区講習、うつ病治療ガイドライン講習、福岡、2018.11.4.
- 16) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト東北講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、宮城、2018.11.10.
- 17) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト東北講習、うつ病治療ガイドライン講習、宮城、2018.11.11.
- 18) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト沖縄講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、沖縄、2018.11.17.
- 19) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト沖縄講習、うつ病治療ガイドライン講習、沖縄、2018.11.18.
- 20) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト関東地区講習、うつ病治療ガイドライン講習、東京、2018.11.18.
- 21) 橋本亮太：EGUIDEプロジェクト新潟講習、統合失調症薬物治療ガイドライン講習、新潟、2018.11.23.

- 22) 橋本亮太 : EGUIDE プロジェクト新潟講習, うつ病治療ガイドライン講習, 新潟, 2018.11.24.
- 23) 橋本亮太 : EGUIDE プロジェクト関東地区講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 東京, 2018.11.25.
- 24) 橋本亮太 : EGUIDE プロジェクト四国地区講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 愛媛, 2018.12.15.
- 25) 橋本亮太 : EGUIDE プロジェクト四国地区講習, うつ病治療ガイドライン講習, 愛媛, 2018.12.16.
- 26) 橋本亮太 : EGUIDE プロジェクト中部地区講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 愛知, 2018.12.22.
- 27) 橋本亮太 : EGUIDE プロジェクト中部地区講習, うつ病治療ガイドライン講習, 愛知, 2018.12.23.

(2) 研修会講師

- 1) 橋本亮太 : 統合失調症の認知機能障害を 15 分で誰でも簡便に測定できる実習コース, 統合失調症における認知機能障害を考える会 in 金沢, 石川, 2018.7.14.
- 2) 橋本亮太 : 統合失調症・うつについて.平成 30 年度第一回薬物療法専門薬剤師集中講義, 大阪, 2018.7.28.
- 3) 橋本亮太 : 児童思春期, 第 15 回日本うつ病学会総会, EGUIDE プロジェクト・うつ病治療ガイドライン講習会, 東京, 2018.7.29.
- 4) 橋本亮太 : 統合失調症薬物治療を正しく理解し正確に伝えるために, 埼玉県精神障害者家族会連合会 精神障害者家族間の支援者(ピアサポート)養成研修会, 埼玉, 2018.10.1.
- 5) 橋本亮太 : 治療抵抗性, EGUIDE プロジェクト中国地区講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 山口, 2018.10.13.
- 6) 橋本亮太 : 理解度の解説とフィードバック, EGUIDE プロジェクト中国地区講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 山口, 2018.10.13.
- 7) 橋本亮太 : 軽症, EGUIDE プロジェクト中国地区講習, うつ病治療ガイドライン講習, 山口, 2018.10.14.
- 8) 橋本亮太 : 理解度の解説とフィードバック, EGUIDE プロジェクト中国地区講習, うつ病治療ガイドライン講習, 山口, 2018.10.14.
- 9) 橋本亮太 : その他の臨床的諸問題, EGUIDE プロジェクト東北講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 宮城, 2018.11.10.
- 10) 橋本亮太 : 理解度の解説とフィードバック, EGUIDE プロジェクト東北講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 宮城, 2018.11.10.
- 11) 橋本亮太 : 児童思春期, EGUIDE プロジェクト東北講習, うつ病治療ガイドライン講習, 宮城, 2018.11.11.
- 12) 橋本亮太 : 理解度の解説とフィードバック, EGUIDE プロジェクト東北講習, うつ病治療ガイドライン講習, 宮城, 2018.11.11.
- 13) 橋本亮太 : 治療抵抗性, 第 28 回日本臨床精神精神薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習会, 東京, 2018.11.16.
- 14) 橋本亮太 : 治療抵抗性, EGUIDE プロジェクト沖縄講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 沖縄, 2018.11.17.
- 15) 橋本亮太 : 理解度の解説とフィードバック, EGUIDE プロジェクト沖縄講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 沖縄, 2018.11.17.
- 16) 橋本亮太 : 治療計画の策定, EGUIDE プロジェクト沖縄講習, うつ病治療ガイドライン講習, 沖縄, 2018.11.18.
- 17) 橋本亮太 : 理解度の解説とフィードバック, EGUIDE プロジェクト沖縄講習, うつ病治療ガイ

ドライン講習, 沖縄, 2018.11.18.

- 18) 橋本亮太: 治療抵抗性, EGUIDE プロジェクト新潟講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 新潟, 2018.11.23.
- 19) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック, EGUIDE プロジェクト新潟講習, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, 新潟, 2018.11.23.
- 20) 橋本亮太: 児童思春期, EGUIDE プロジェクト新潟講習, うつ病治療ガイドライン講習, 新潟, 2018.11.24.
- 21) 橋本亮太: 理解度の解説とフィードバック, EGUIDE プロジェクト新潟講習, うつ病治療ガイドライン講習, 新潟, 2018.11.24.

F. その他

- 1) 橋本亮太: 研究会主宰, 第 16 回 IGC 第 12 回 COCORO 合同会議, 東京, 2018.12.8-9.
- 2) 橋本亮太: 総合司会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト中国地区講習, 山口, 2018.10.13.
- 3) 橋本亮太, 総合司会, うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト中国地区講習, 山口, 2018.10.14.
- 4) 橋本亮太, 総合司会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト東北講習, 宮城, 2018.11.10.
- 5) 橋本亮太, 総合司会, うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト東北講習, 宮城, 2018.11.11.
- 6) 橋本亮太, 総合司会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト沖縄講習, 沖縄, 2018.11.17.
- 7) 橋本亮太, 総合司会, うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト沖縄講習, 沖縄, 2018.11.18.
- 8) 橋本亮太, 総合司会, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト新潟講習, 新潟, 2018.11.23.
- 9) 橋本亮太, 総合司会, うつ病治療ガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト新潟講習, 新潟, 2018.11.24.